

「シリア人自身がシリアの未来を語るワークショップ」

6 年目に入るシリア紛争は混迷を極め、シリア人はきびしい人道状況に直面しています。これまで和平に向けた国際的な取組みが実施されてきましたが、いずれも状況を好転させる結果を出せていません。

将来の「平和で皆が住みよいシリア」のためには、多様な声を互いに聞き、一緒に新しい社会を作っていくための話し合いの機会を今から持つことが重要であり、いかなる少数派の人々も排除されたり、また差別や迫害されたりすることがあってはなりません。

そこで、ヨルダンや、レバノン、イラク、トルコなどに逃れたシリア人や、シリア国内にとどまっているシリア人が、和平実現後を想定し、新しいシリアを再建する際に、今まで憎しみや殺し合ってきた敵対する人たちとどのように和解し、一緒に新しい社会を形成できるのかについて考える機会を持つことが、将来の和平につながると考え、下記の活動案の提案をさせていただきます。まずは、状況が安定しており日本の NGO も数多く活動しているヨルダンでの開催を提案致しますが、その後は、それぞれの国の事情を勘案した上で内容を調整しながら、各国において同様の企画を実施することを想定しています。

ヨルダンには、63 万人以上のシリア人が UNHCR に難民登録し、登録をしていない人を含めると 140 万人のシリア人が暮らしています。既にシリア人同士が助け合うグループがいくつも立ち上がっており、青少年、女性・子ども、障害者、その他の社会的弱者など、特定の人々に焦点を当てた支援活動を実施しています。これらのグループがお互いに情報交換をしたり、協力して活動する機会を作るなど、シリア人同士のつながりを深めることから始め、将来の和平につながる方策を構築して行くことが必要であると考えております。

また、今後別の地域やグループで行うことになった場合は、ワークショップの内容を公表することで、敵対していたシリア人同士にもつながりができ、和平を加速する効果が期待できます。

【具体的な活動案】

「シリア人自身がシリアの未来を語るワークショップ」（仮）

1. 場 所：ヨルダン
2. 日 程：3 日間
3. 参加者：ヨルダン在住のシリア人でシリアのための活動に携わっている 20～25 人。
 - 青少年（支援）団体（サダーカが参加者を調整）
 - 女性・子ども支援団体（サダーカおよび JIM-NET が調整）
 - シリア女性協会
 - ミラード・アソシエーション
 - 障害者（支援）団体（JIM-NET が調整）
 - イルビッドのグループ（JIM-NET の活動参加者）
 - アンマンのグループ（JICA の支援対象者）
 - シリアン・アクロス・ボーダー（NGO）
 - その他の滞在型負傷者支援センター

4. プログラム：ファシリテーターと共に作成。

基調講演、紛争後の和解プログラム（例えば旧ユーゴ紛争、ルワンダ内戦など中東以外の地域）の経験者の招致に加え、ワークショップの合間に、参加者が自然・文化遺産などを共に訪れて交友を深めることによりワークショップの効果を高めることを検討。

5. ファシリテーター：日本人のファシリテーション専門家を予定。

6. 成果：

このワークショップをきっかけとして、これまで共有される機会のなかった「平和で皆が住みよい将来のシリア」、「敵対する人たちをどのように復興に組み入れるかのヴィジョン」をシリア人自身が共有することにより新しい横の繋がりや連携が生まれ、この連携がひいては将来のシリア和平に貢献することが期待されます。

以上